

2012年8月

考古 No. 5

けんぱくものしりシート

たて あな じゅう きよ 竪穴住居



いま まん せんねん ねんほどまえ じょうもん じだい ひとびと おお たてあなじゅうきよ す
今から1万2千年~2,300年程前の縄文時代、人々の多くは竪穴住居に住んでいました。どのような家だったのか、その様子をのぞいてみましょう。

この模型は、約4,500年前の竪穴住居跡(花巻市・大地渡遺跡)をモデルにしています。

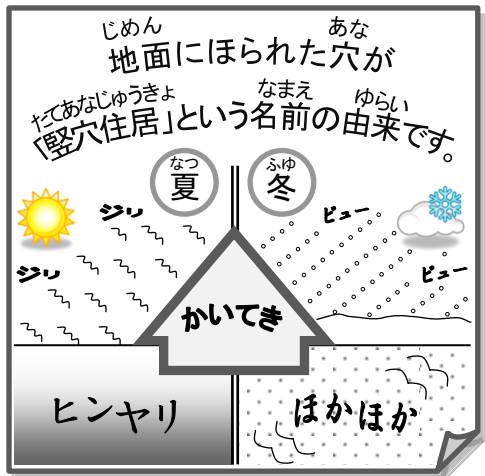
はしら 柱などの骨組みには、クリやナラなどのくさりにくい木が使われ、ツル(ツタなど)でしっかりとしばってあります。



やね 屋根はカヤ(ススキ)であつくおおわれていて、地面まで続いています。雨も雪もしみこみません!

ゆか 床の部分は地面に穴をほって押し固めてあります。土の中は空気の熱が伝わりにくいところなので、穴をほると夏はずすしく、冬は暖かく過ごせるのです。穴の深さの平均は約50cmですが、寒さの厳しい北国からは100cmを超える例も見つかっています。【模型:約30cm】

ひろ 広さは4畳半~10畳くらいで、一家族4~6人が生活していたと考えられています。【模型:約6畳】



ろ
 炉 は床の真ん中あたりにあつて、火を燃やしたところです。食事を作ったり、体を暖めたり、明かりとしても使いました。

おいしそう?!



木の実を粉にした団子をゆでている↑



でいりぐち
 出入口は住まいに一つだけ。その上には炉から出たけむりを出すための穴があいています。けむりには、カヤをくさらせないような効果があります。

←しゃがんでのぞいてみてね!

床の穴の内側にはカヤをたてて、土がボロボロとくずれ落ちないように工夫しています。炉の側の床がくぼんでいるところにはいくつか土器を置き、木の実などを入れてあります。



整理整頓が大切→

たてあなじゅうきよ
竪穴住居のつくりかた

1. 地面に穴をほって固める。



2. 柱などの骨組みをつくる。



3. 屋根をおおってできあがり!



(図：参考にした本①より)

縄文時代には、このような竪穴住居などがいくつか集まったむらがあり、人々はその中で協力しながらくらしていました。



御所野縄文公園ホームページより

一戸町の御所野縄文公園では、縄文時代中ごろ(4,000年~4,500年程前)

のむらの様子を再現していて、竪穴住居の中に入ることができます。

ぜひ遊びに行ってみてくださいね。

参考にした本 ①『しらべ学習に役立つ日本の歴史① 縄文式土器とたて穴式住居をしらべる：自然をいかし、くふうをかさねた800年間』古川清行 1995年 / ②『列島の考古学 縄文時代』能登健 2011年 他

らいげつ がつ
 来月(5月)の
 けんぱくものしりシートは
 れきし
 歴史-5だよ!
 おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>